

子育て情報 4月号

平成30年4月
相山女学園大学附属幼稚園

はじめまして

園長 山中 文

はじめまして。4月より園長になりました、山中 文（やまなか あや）と申します。相山女学園大学所属で、幼稚園園長を兼務いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

大学では教育学部で音楽教育を担当しています。ピアノや歌を教えるのではなく、小学校・中学校の音楽の授業をどのように構成していくか、乳幼児期の音楽活動はどのような意味があるのか、といったことをいつも考えています。

前任校でも4年間任期で附属幼稚園長を兼務しておりました。そちらの子どもたちの遊びやこちらの子供たちの遊びの違いを楽しんだり、同じようなそぶりをするのを見つけて納得したりしています。

家庭には、息子が二人おります。もう育ちすぎるくらい育って、自分たちで勝手に大きくなったような態度でおりますが、ふとした時に小さい頃の表情を見せてくれます。息子たちの小さい頃を幼稚園の子どもたちと重ねてみたりもしています。

本稿では、このような、これまでの私の人生や研究を下敷きに、いろいろお話しさせていただければと考えております。

幼児期の子どもたちは、さまざまな遊びに取り組む中で、自分なりに気づき、試し、工夫しを繰り返し、それを友だちと共有するようになります。このようないわばオープンシステム的なたくさんの経験は、子どもたちにとって大事な人生の基盤になります。

時には、入園当初ぐずる子どもたちの様子を見て、まだ早いかなあとか、どうしてうちの子は、と心配されることもあるかもしれません。でも、子どもたちの順応性は高いです。大泣きしていた子どもも数ヶ月たつとたくましい園児です。

私は息子を保育園に入園させていましたが、毎週金曜日にはお昼寝布団を持って帰ることになっていました。ある夕方、あたりはもう暗く小雨も降っている中、自転車の前カゴには布団をのせ、両ハンドルには買い物袋をぶらさげ、後ろの荷台には息子を乗せて帰っておりました。（ごめんね。遅くなったね。寒いよね。お腹すいたよね）という気持ちで、あせりながら自転車をこいでおりましたら、後ろから息子が、声をかけてきました。

「ママ、雨ってすごいね。ぼくのお目目はこんなにちっちゃいのに、ちゃあんと入ってくるんだよ」

その一言にすっと気持ちが救われ、「そうだねえ」と楽しく話しながら帰ってきたことを覚えています。子どもは助けもいりますが、時々助けてもくれます。そのような子どもたちとの幼児期の生活を一緒に楽しんでいきましょう。